

(様式1)

令和7年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)
 県民公園自然博物館 自然保護課

2 施設所在地
 富山市婦中町吉住1-1

3 施設設置年度
 昭和56 年度

4 設置目的
 展示館と自然観察のためのフィールドを利用して、自然に親しみ学習する機会を提供し、自然保護思想の普及を図ることで、県民の教育向上ならびに福祉の増進に寄与することを目的とする。

5 施設概要
 敷地面積：147,498㎡
 自然博物館センター
 ・延床面積：726.54㎡
 ・構造：鉄筋コンクリート2階建
 ・施設内容：1階 展示室、レクチャールーム
 2階 展示室、事務室、トイレ、研究資料室等
 鳥獣保護センター
 ・延床面積：112.52㎡
 ・構造：管理棟 鉄筋コンクリート造平屋建 一部鉄筋金網造
 ・施設内容：救護室、飼育室8室
 ・関連施設：焼却施設
 フィールド
 ・山林：約12.8ha
 ・園路：1周約2km自然観察路
 ・工作物：標識1基木造、バランスボード1基、ライド遊具3基

6 指定管理者
 公益財団法人富山県民福祉公園

7 指定期間
 3 年
 令和5年4月1日 ～ 令和8年3月31日

8 利用者数及び利用（使用）料金収入の状況

(1) 利用者数（人） ※この他、参考となる指標があれば追加

R3	R4	R5	R6	R7
13,144	14,311	14,818	15,483	17,419

(2) 利用（使用）料金収入（千円）

R3	R4	R5	R6	R7
—	—	—	—	—

(3) 利用料金収入見込み額（利用料金制導入施設の場合）

R3	R4	R5	R6	R7
—	—	—	—	—

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

利用者数:1,936人増加(前年度比)

【評価】前年度と比較し、利用者数が約12%増加した。4～11月に比べ、12～3月は雪の影響もあり利用者が少ない傾向にある。

(2) サービス向上に向けた取組み

- ・駐車場から本館まで距離があるため、利用者に少しでも快適に過ごしていただけるように、誘導サインの他、路上にケンケンパを描いたり、クイズを設置・定期的に更新したりするなど工夫した。
- ・「野生動物と人との共生」についての普及啓発を行い、ニホンザル、イノシシ、ツキノワグマの生態や被害状況、被害対策などについて展示を行った。
- ・鳥獣保護センターに持ち込まれる傷病鳥獣の野生復帰率を高めるため、獣医師との連携を深め、専門的治療を行った。

(3) 利用促進（収入増）に向けた取組み

- ・指定管理者制度導入以来、マスコミや来館者に対し、積極的に情報提供を行っている。
- ・令和5年12月にHPのリニューアルを実施し、携帯電話でのアクセスの向上を図った他、県民福祉公園が管理する他施設のHPにリンクを掲載し、利用促進に務めた。
- ・冬期には冬眠により展示生物が限られること、悪天候や積雪のため屋外での活動が制限されることから、室内プログラムを充実させている。（来園者が自由に体験できる塗り絵、ミツロウの型抜き(令和5年度から実施)、森で見つけた様々な物を調べ箱に詰める「森の宝石箱」(令和6年度から実施)などのワークショップを実施)
- ・「リアルタイム自然情報」やHP、ブログ、X、園内の看板更新など、積極的に自然情報を発信した。

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

① アンケート結果

実施方法	実施期間：通年、実施方法：入場時にアンケート用紙を配布
回答者数	回答者数：130人
結果	施設全般の満足度：「満足」「やや満足」 93.1% また来たいか：「来たいと思う」「少し思う」 99.2%
結果を踏まえた改善事項	前年度と比較すると、施設全体の満足度について、「満足」「やや満足」と回答した方が97.5%から93.1%に減少したものの、また来たいかについては、「来たいと思う」「少し思う」と回答した方が97.8%から99.2%に増加した。 新規利用者は35.4%、リピーターが64.6%であり、大半がリピーターであった。新規利用者と呼び込むため、今後も引き続き、出前講座などの園外イベント、HPやXを活用した情報発信などを積極的に行う必要がある。また、来園者の満足度を高めるため、施設・屋外フィールドの適切な維持管理に努めるとともに、展示や自然体験プログラムを工夫し新たな発見を提供していく必要がある。

②その他利用者の声を反映させる取組み

- ・利用団体やボランティアとの意見交換を実施
- ・意見箱の設置
- ・HPやメールの活用

③主な苦情と対応

- ・階段で滑りそうになる⇒周辺に注意喚起の表示を行った。

(5) 個人情報保護の取組み

個人情報に関する指針を定め、職員に周知を図っており、適切な個人情報保護が図られている。

(6) 関係団体との連携

- ・保育園、幼稚園での出前講座を実施した。
- ・14歳の挑戦の受入を実施した。
- ・地元保育所、小学校などの校外学習サポート、環境教育を行った。
- ・環境フェア、県立大学ダヴィンチ祭、科学の祭典、ジュニアナチュラリスト養成講座、川
の環境観察会、JAとなみ野などへの参加・協力を行い、地域との連携を図った。

(7) 施設・設備の維持管理

各施設の整備点検、施設修繕を実施し、適切に管理されている。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

- ・熱中症対策としてエアコンを適切に使用
- ・園内や管内の巡視、不具合への対処(枯損木や樹木の処理、老朽化した箇所の補修など)
- ・AEDの管理、講習会への参加

10 所管課の管理運営確認状況

- ①定期報告の受理
- ②維持管理・運営状況等の担当職員現地確認
- ③個人情報に関するトラブルの有無
- ④危機管理・安全管理上のトラブルの有無

有／無 回数(有の場合)

有	12
有	12
無	—
無	—

【トラブルの具体的内容と対応】

なし

11 今後の課題等 (収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載)

- ・施設の老朽化による修繕必要箇所が多発しており、迅速な対応が必要である。
- ・冬期は利用者が減少する傾向にあるため、天候に左右されづらい室内でのワークショップ等を引き続き実施する必要がある。
- ・新規及びリピーターの利用促進につなげるため、今後もマスコミへの情報提供、HPやSNSでの情報発信、学校・イベント等での出前講座に積極的に取り組む必要がある。
- ・引き続き、利用者の安全を第一としつつ、業務の効率化による経費削減に努めながら、施設の目的達成と、現在の利用者のニーズに的確に対応した管理運営に取り組む必要がある。